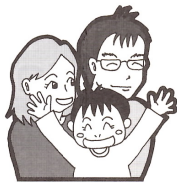


2014年 新春号
第41号

民主党川崎市議会議員団
〒210-8577
川崎市川崎区宮本1番地
川崎市役所第二庁舎内
http://minshu-kawasaki.jp/

The Democratic Party of Japan
民主党



民主党川崎市議会議員団 川崎市議会議員

おだ かつひさ PRESS

〒216-0003
川崎市宮前区有馬6-6-1 五十嵐ハイツ102号
TEL & FAX : 044-856-5456
E-mail: oda@odakatsu.com
URL http://odakatsu.com/



いまこそ
理想と決断

鷺沼駅前理想は、人と車の混在を解消すること 「再整備について検討を進めていく」 との新市長の方針が示される



急激に高齢化を迎えている宮前区で、とくに地域の生活拠点である鷺沼駅周辺の慢性的な交通渋滞の解消や、コミュニティバスの実現、さらには駅前広場に新設路線バス停の設置など、日ごろから多くの交通環境改善に向けた要望をいただいています。

これらの課題を抜本的に解決するには、鷺沼駅前広場を中心とした基盤再整備がどうしても避けて通れません。これまでの議会での質疑を踏まえて、昨年新春号に続いて、このテーマのその後の経過をご報告します。

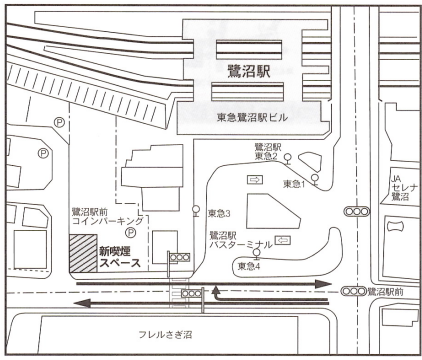
桜並木と歩道の整備、駅前信号の設置、喫煙所の移動など、駅前再整備の環境づくりに一応のメド

鷺沼駅前再整備は長年の懸案ですが、そもそも莫大な再整備費用をだれが負担するのか、という難題を丁寧に解決していかなくてはなりません。でなければ再整備のテーマ自体が計画の俎上に上がらないからです。

これまで市関係当局と議論を進めるなかで、行財政改革進行下では、大型プロジェクトとしての事業化計画を議論していく雰囲気を感じてきたのです。

そこで当面は、駅前再整備が宮前区の重要なインフラ整備の課題である、との認識を正式に川崎市に持たせること、また市がこの問題意識を持っていることを議会で正式に表明させることが第一歩でした。

これと併せて、市役所と区役所に鷺沼駅周辺問題として、老木化した桜並木と歩道の修繕、北口改札口設置問題、フレル(駅前商業施設)前横断歩道の信号設置問題、喫煙所の移動問題など、地域の皆さんからの要請を間断なく行政への課題として投げかけ続けることで、いずれ鷺沼駅前再整備の機運の醸成を図ってまいりました。関連して、駅周辺の渋滞解消と、コミュニティバスをはじめとする新たなバス路線開通のためのバス停留所をどこに設置をするのか、といった課題も議論してきました。ゆくゆくは、近隣老朽化マンションの建て替えなども視野に入れた再開発も考えたいと思います。



新喫煙スペースと信号機および折戻レーン設置のイメージ

植樹の緑石を直し、歩道のバリアフリー化を進め、特に、桜を新たに植え替える「補植」を平成24～25年度にかけて集中的に実施して、本年度中に鷺沼小学校から鷺沼公園に向かっての並木の整備も行われる予定です。

フレル前横断歩道への信号の設置は2月末までに実施の予定が正式に示されました。苦情の絶えない「喫煙スペース」については、東急電鉄の協力をいただいで、フレル向かいの駐車場の空きスペースに3月末までに移動することが決まりました。

この信号設置については長年の懸案でした。多少の交通混雑、渋滞の緩和は期待できるものと考えています。しかし、抜本的な交通環境の改善は、やはり駅前広場の再整備だと考えます。

総合都市交通計画に「駅前広場整備の方向性」は示されたものの、具体的な事業としての言及はなし

鷺沼駅前再整備の難しさは、敷地のほとんどが民地であるので、都市計画道路の再整備などと連携づけて、行政主導で再整備を行うことができないことです。必ず東急電鉄の協力や理解を得なくてはならないのです。

川崎市の交通計画のマスタープランである「総合都市交通計画」が2013年3月に策定されました。

「おだかつひさPRESS第38号」でも報告したとおり、道路交通施策や地域交通施策との関連から、都市計画道路の整備や交通渋滞個所の改良と併せて、バスの走行環境の改善や新規路線の開拓など駅前広場の整備、改良の課題は重要なテーマであることを主張して、特に「駅前広場整備」を総合都市交通計画の中に位置づけることができました。

その後、引き続き、「総合都市交通計画」における鷺沼駅前整備の考え方や鷺沼駅周辺まちづくり調査事業の成果などに関連して、駅前広場整備などの駅の特徴を踏まえた交通結節機能の強化の視点から議論を続けてきました。

「官民連携」の取り組みは、地権者である東急電鉄の協力がなくてはありえない

横浜市では、2012年4月に東急電鉄と「次世代郊外まちづくりの推進に関する協定」を結び、さっそく、第1号のモデル地区を「たまプラーザ駅北側地区」に決定し、すでに協議に入っています。

そこで、このパブリックプライベートパートナーシップ(官民連携)の構築について、川崎市も東急電鉄と同様の協定を結び、その協議の場において、鷺沼駅前広場を中心とした基盤再整備問題を議論の対象とすることを提言しました。これを受けて、横浜市に遅れて約1年、2012年8月に川崎市も東急電鉄と「官民連携」のプロジェクトである「まちづくり研究会」の立ち上げをさせることができたのは、前

回報告した通りです。

平成26年度中に一定のとりまとめ報告が出る予定となっています。すでに3回の「まちづくり研究会」が開催されておりますが、プロジェクトのテーマや論点などの詳細については、民間企業の利益にかかわる「守秘項目」としてなかなか情報がとれないのが現実です。現状は、「まちの活力の維持、増進に向けた都市機能の立地誘導等について、国の動向や、他都市の事例も参考にしながら検討を進めている」とのことです。

鷺沼駅前再整備の基本は、「人と車の流れ」を明確に分離すること

フレル前横断歩道に信号が設置されると多少の渋滞緩和にはなるかもしれませんが、抜本的な交通環境の改善は、駅前広場の再整備を行わなくてはならないと考えます。

平成26年度は、次期川崎市総合計画の策定が予定されています。駅前再整備計画を本格化させるタイミングと考えます。

市長も代わり、武蔵小杉駅周辺の再開発もひと段落しましたので、市内の公共投資が毎年薄い傾向にある、宮前区での公共事業プロジェクトを主張しやすい時期となったとも認識しています。

鷺沼駅前の再整備のポイントは、①駅乗客の流れを地下(駅ホーム)に流す動線を確保し、地上はバスターミナルを中心とした交通結節機能に特化するなどして、人と車の流れの混在を解消すること ②フレルの機能を損なわないこと ③駅の上に駅ビルを作るなどして再整備事業に付加価値をつけること、以上に集約されると考えます。もちろん、東急電鉄に鷺沼駅前再整備によってどのような事業上の利益がもたらされるか真剣に検討することも重要だと思います。

昨年12月の定例会で、私の鷺沼駅周辺の再整備に対する課題と考え方の質疑に対して「だれもが暮らしやすい持続可能なまちとなるよう、再整備について検討を進めていく」との新市長の方針が示されました。

次期総合計画に具体的な位置づけがされるように、議会での取り組みを強化してまいります。市民の皆さんからたくさんのご意見を頂戴できればと存じます。

